



準優勝



平成26年度全日本学生 ハンドボール選手権大会



復活の年

「自分たちのすべてを懸けて、チーム一丸となって戦い抜き、再び全国にその名を轟かせた。」

女子ハンドボール部は、高松宮記念杯女子第50回平成26年度全日本学生ハンドボール選手権大会（11月22日から岐阜県で開催、通称・全日本インカレ）で準優勝に輝いた。

2012年の同大会優勝から一転、2013年は不本意なシーズンに終わり、2014年は「復活の年」と掲げたものの、これまでの結果は芳しいものではなかった。主将の眞継麻礼選手（スポーツ専攻4年生）は、

反響大きく

大会中はコマへ進めることに、周囲からの反響の大きさを感じたという。

板野陽選手（スポーツ専攻4年生）は「友人だけでなく、普段関わりの少ない他の部活の学生からも激励の声が多数届き、期待に恥じない戦いをしよう」とチームの士気を高めた。

熱き魂を次代へ

同大会の結果を受けて、同部は実業団代表と学生代表が日本一を懸けて戦う、平成26年度第66回全日本総合ハンドボール選手権大会（12月25日から名古屋で開催）の出

場権を獲得し、三重バイオレットアイリスと初戦に挑んだ。最高峰の壁は厚く17対25で敗れたが、「後輩には全日本インカレで金メダルを手にして、またこの檯舞台に上がってほしい」（眞継選手）と思いを託す。その熱き魂は、必ずや次期チームへと伝承されるだろう。

チーム復活を支えた両輪



特別賞
板野陽選手

優秀選手賞
眞継麻礼選手

ステージ	対戦大学	総合スコア
一回戦	東海大学	21対20(前半8対10、後半13対10)
二回戦	愛媛大学	41対16(前半19対9、後半22対7)
準々決勝	中京大学	20対17(前半12対9、後半8対8)
準決勝	筑波大学	19対17(前半9対10、後半10対7)
決勝	大阪体育大学	13対28(前半4対16、後半9対12)

この一戦がターニングポイントとなり、準々決勝で中京大学、準決勝では筑波大学を下し、決勝に進出した。相手は関西対決となる大阪体育大学。結果は13対28と敗れたが、4年生にとって

は万感の思いをこめて描いた大会となった。



顧問の土井教授とともに栗林学長を表敬訪問

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大教スポーツ

平成27年3月6日(金) 2号

発行:大阪教育大学体育会 編集長:太田順康(保健体育教育講座教授)
編集委員:井若律(モダンダンス)/中東大輝(体操競技)/久保田真一(男子ラクロス)/
笹倉あかり(卓球)/松端伶奈(女子サッカー)/林田孝祐(男子ラクロス)/小島
里咲(民族舞踊)/長田佳樹(合気道)/岡岡里佳(陸上競技)/乾祐都(L.S.B)
DAIKYO PRESS(特別寄稿):浅野真帆/角田聡美/山住七菜子/楠明日葉/鈴木なるみ/
中野真帆/松木友里愛/關根彩/山崎由香子

2面	平成26年度下半期体育会 主な成績・活動一覧
3面	平成26年度体育会学長杯受賞者・団体一覧 平成27年度上半期 試合・行事日程一覧
4・5・6・7面	DAIKYO PRESS 特別寄稿! 教員養成系大学ならではの剣道部「小右武剣道大会」/陸上競技部「子ども陸上教室」/女子ハンドボール部 強さの秘訣/ DAIKYO PRESS注目の部活に直撃取材!
8面	ホットニュース/我が体育会〜現役生に贈る言葉〜/編集後記

平成26年度下半期 主な成績・活動一覧

水上競技部小林奈央選手

2種目準優勝！

レースを振り返って小林選手は、「持ち味である、前半は積極的に攻め、後半は逃げ切る展開をイメージしてレースに挑みましたが、勝たなければという焦燥感が強く出過ぎて、思い通りのレース展開ができませんでした」と悔しい胸の内を語った。しかし、周囲の反応を聴くと笑顔を見せ、「支えてくれる周囲

の方々のおかげでこのような成績を残すことができた」と感謝の言葉を述べた。

今後の目標では「来年度の日本学生選手権を優勝という最高の形で締めくり、大学に恩返しをしたい」と雪辱を誓った。さらにはリオデジャネイロ五輪出場も視野に入れていると話し、本学体育会のエースの今後にますます期待が高まる。



男子ラクロス部

創部12年目での快挙

主将の永田晴哉選手（中学校数学専攻4回生）は「この1年間、ただ1部昇格のみを目標に日々取り組み、一戦一戦を大事に戦ってきたので、やっと目標を達成できたの思いが強く、特別な感情は湧きませんでした」と当日の率直な感想を述べた。ただし、「チームを支え、応援してくれた方々からの祝福の声が届くにつれて、自分たちは大仕

事を成し遂げたのだなと実感するようになりました。主将としてチームを牽引してきましたが、チームメイトや周囲の支えのおかげで、昇格へ導くことができたと思います」と喜ぶを語った。

同部は2007年のリーグ参戦以降、4年目で2部リーグ昇格、6年目で1部リーグ昇格を果たし、関西ラクロス界からも注目を集めている。勢いづく同部の来季リーグ戦に目が離せない。



男子バレーボール部

チーム一丸での栄冠

前季の春季リーグで2部リーグから3部リーグへ降格したことから、再昇格を懸けたリーグ戦。見事な返り咲きとなったが、主将の鈴鹿黎選手（スポーツ専攻4回生）は表情を引き締めて、「開幕から連敗を喫し、早々に優勝の望みが潰えてしまったため、本意な形で再昇格となりまし

たが、率直にうれしいです。苦境に陥ったリーグ戦でしたが、チーム一丸となって戦い抜いた末の栄冠だと思います」と語った。また今後の目標については、「男子バレーボール部が2部リーグで戦うのは、長い歴史の中でもごく最近のことです。今後もリーグ死守とさらなる上位を目指して頑張りたい」と躍進を誓った。



部名	大会名	結果
男子バスケットボール部	関西学生バスケットボール秋季2部リーグ	8勝5敗 2部3位 優秀選手賞 安部瑞基(スポーツ専攻3回生)
女子バスケットボール部	関西女子学生バスケットボール秋季2部リーグ	0勝3敗
男子バレーボール部	関西学生バレーボール秋季3部リーグ	5勝2敗 3部3位→2部7位(昇格)
女子バレーボール部	関西女子学生バレーボール秋季4部リーグ	2勝5敗 4部7位→5部2位(降格)
男子ハンドボール部	関西学生ハンドボール連盟秋季2部リーグ	1勝5敗 2部6位
女子ハンドボール部	平成26年度全日本学生ハンドボール選手権大会	準優勝 最優秀選手賞 眞継麻礼(スポーツ専攻4回生) 特別賞 板野陽(スポーツ専攻4回生)
硬式野球部	近畿学生野球秋季1部リーグ	6勝7敗0分 4位
準硬式野球部	阪神六大学秋季リーグ	5勝6敗1分 5位
男子サッカー部	関西学生サッカー秋季1部リーグ	1勝6敗4分 1部11位→2部(降格)
女子サッカー部	関西学生女子サッカー秋季2部リーグ	3勝3敗 2部4位
ラグビー部	関西大学Bリーグ	5勝4敗 2部5位
アメリカンフットボール部	2014関西学生アメリカンフットボールリーグ Div.II	4勝1敗0分 Bブロック2位
硬式庭球部	全日本学生テニス選手権大会	女子シングルス 長妻遥奈(スポーツ専攻3回生)本選出場 女子ダブルス 藤原玉穂・丸山薫(以上スポーツ専攻4回生)本選出場
ソフトテニス部	全日本教育大学ソフトテニス大会	男子団体4位、女子団体6位(女子は奈良教育大学との連合チーム)
卓球部	全国教育大学卓球大会	現役男子団体 準優勝
剣道部	第62回全日本学生剣道優勝大会	男子団体ベスト16、女子団体ベスト16
柔道部	大阪府下大学団体柔道大会	2部準優勝
合気道部	特になし	
空手道部	第45回日本空手道系洲会全国選手権大会	男子有級 室田将太郎(スポーツ専攻2回生)準優勝
体操競技部	特になし	
陸上競技部	第58回全国教育系大学陸上競技大会	男子総合3位、女子総合5位
	2014関西学生新人陸上競技選手権大会	三原雅司(スポーツ専攻2回生) 200m2位
バドミントン部	関西学生バドミントン秋季リーグ	男子 4部1位、女子3部5位
水上競技部	第90回日本学生選手権水泳競技大会	女子個人 小林奈央(スポーツ専攻3回生)100mバタフライ2位、200mバタフライ2位
スキー部	特になし	
民族舞踊部	特になし	
モダンダンス部	ステージ「VIVA!La vie Boheme!!～8th chain～」を開催	
男子ラクロス部	関西学生ラクロス2部リーグ	6勝0敗 2部1位→1部(昇格)
女子ラクロス部	関西学生ラクロス2部リーグ	5勝1敗1分 2部4位
弓道部	関西学生弓道リーグ	男子 1勝3敗 4部4位、女子 2勝1敗 6部3位
L.S.B	特になし	
フィギュアスケート部	POT競技会	7位

平成26年度体育会学長杯受賞者・団体一覧

部名	男女別	順位
学長杯	女子ハンドボール部	第50回全日本学生ハンドボール選手権、準優勝
学長杯個人賞	眞継麻礼 (女子ハンドボール部)	第2回東アジアU-22選手権代表
		第50回全日本学生ハンドボール選手権、優秀選手賞
	板野陽 (女子ハンドボール部)	第22回世界学生ハンドボール選手権代表
		第50回全日本学生ハンドボール選手権、特別賞
殊勲賞	小倉健志(剣道部)	第62回関西学生剣道選手権大会、(個人)優勝
		第61回全日本学生剣道東西対抗試合、優秀選手(西軍)
		日韓学生剣道親善試合、2年連続出場
	橋口若葉(水上競技部)	日本学生選手権水泳競技大会、4年連続決勝出場
		日本選手権水泳競技大会、4年連続出場
		JAPAN OPEN、400m個人メドレー7位(2011)
敢闘賞	男子バスケットボール部	関西学生バスケットボール秋季リーグ戦、2部3位、(創部初の)入れ替え戦進出
	男子ラクロス部	関西学生ラクロスリーグ、2部全勝優勝、1部昇格
体育会会長杯	伊佐嘉矩(陸上競技部)	関西学生陸上競技対校選手権大会、十種競技7位(第90回)、3位(第91回)
		関西学生陸上競技種目別選手権大会、十種競技3位(2013)、4位(2014)
体育会顧問奨励賞	男子バスケットボール部	チームの意識改革を目指し、体育館玄関の清掃をはじめ率先して体育館の環境向上に努めた。その結果が実り、(創部初の)入れ替え戦進出を果たした。チームの意識改革に向けて実施した様々な取り組みは体育会顧問教員一致して奨励に値すると評価した。

平成27年度
上半期 試合・行事日程一覧

体育会入会希望の方は、体育会公式ウェブページをご覧ください。→<http://jikirada.ict.osaka-kyoiku.ac.jp/~taiikukai/>

部名	日程	大会名	会場	部名	日程	大会名	会場
男子バスケットボール部	4月～5月	平成27年度関西学生バスケットボール選手権大会		剣道部	5月	第60回西日本学生剣道大会	
女子バスケットボール部	4月	全関西女子学生バスケットボール選手権大会				第30回西日本女子学生剣道大会	
男子バレーボール部	4月～5月	関西学生バレーボール春季2部リーグ		柔道部	5月	関西学生柔道優勝大会	
女子バレーボール部	4月～5月	関西女子学生バレーボール春季4部リーグ		合気道部	特になし		
男子ハンドボール部	4月～5月	関西学生ハンドボール連盟春季2部リーグ		空手道部	未定	第49回関西学生空手道選手権大会	
女子ハンドボール部	4月～5月	関西学生ハンドボール連盟春季1部リーグ		体操競技部	4月	第57回関西学生体操選手権大会	
硬式野球部	4月～5月	近畿学生野球春季1部リーグ			5月	西日本学生体操選手権	
準硬式野球部	3月7日～4月24日	阪神六大学春季リーグ	舞洲ベースボールスタジアム、住之江公園野球場、久宝寺緑地野球場	陸上競技部	5月	第92回関西学生陸上競技対校選手権大会	
男子サッカー部	未定	関西学生サッカー春季2部Aリーグ		バドミントン部	未定	2015大阪学生バドミントン選手権大会	
女子サッカー部	5月～6月	関西学生女子サッカー春季2部リーグ	大阪教育大学他	水上競技部	7月17日～7月19日	第98回関西学生選手権水泳競技大会	
ラグビー部	未定	関西大学Bリーグ		スキー部	2月24日～3月2日	第88回全日本学生スキー選手権大会	長野県野沢温泉スキー場
アメリカンフットボール部	4月下旬～6月上旬	2015西日本学生大会	王子スタジアム、EXPO FLASH FIELD 他	民族舞踊部	3月18日～3月21日	全日本学生フォークダンス連盟春の指導者講習会	
硬式庭球部	9月	関西大学対抗テニスリーグ(男子3部、女子2部)	各大学テニスコート	モダンダンス部	8月5日～8月8日	第28回全国高校・大学ダンスフェスティバル神戸	
ソフトテニス部	4月	関西学生春季リーグ		男子ラクロス部	8月～12月	関西学生ラクロス1部リーグ	
卓球部	4月	関西学生卓球春季リーグ戦		女子ラクロス部	8月～12月	関西学生ラクロス2部リーグ	
				弓道部	8月	全国教育系大学弓道選手権大会	愛知教育大学
				L.S.B	特になし		
				フィギュアスケート部	特になし		

剣道部

『小右武剣道大会』

教員養成系大学ならではの！

小右武剣道大会が、2014年12月7日(日)に柏原キャンパスで開催されました。年に一回、本学剣道部の卒業生が部活顧問を務める高等学校の生徒を対象とした訓練試合で、今回で27回目となります。毎年、全国から数多くの高校が参加し、本学剣道部にとって伝統的な大会となっています。

主将の香取祐一郎選手(スポーツ専攻4回生)は、同大会の運営スタッフを務めています。部員にとっては、どんな意義があるのでしょうか？



今年も7府県20校から217人が参加しました

指導者になるための学びの場に



香取祐一郎選手
(スポーツ専攻4回生)

——小右武剣道大会とはどんな大会ですか？

香取 同大会は、剣道部卒業生が指導している教え子同士が戦うトーナメント試合です。卒業して教師となってからも、部活顧問として剣道と関わっている方が多いので、教え子の日々の練習成果を確かめ、指導者としての姿を母校にお披露目できる大変意義が深い大会なのです。先輩方に忙しい中来てもらっている大会ですので、ばく達部員は、心を込めてお手伝いし、日頃の感謝の気持ちを、この大会を通して先輩方に伝えたいと思っています。

——部員にとってはどんな意義がありますか？

香取 先輩方の指導を目にしている、将来自分たちが指導者になった時のために、指導方法を学びつつ、自分たちの理想のスタイルを作っていくという良いなと思います。ぼくの理想は一致団結したチームを作ることなので、実際に向けてこの経験を活かしていきたいです。

——今後、小右武剣道大会はどう発展していくのでしょうか？

香取 実は、ばくも高校時代にこの大会に参加したことがきっかけで、大教大を受験しました。毎年参加校が増えているので、多くの高校生に大教大を志してもらえように、また卒業生、部員にとって、より一層誇りのある大きな大会にしていきたいです。

試合後には、卒業生、生徒、部員が一堂に集結し、総勢300人以上による合同稽古も行われます。剣道を通して、母校への恩返しや、先輩・後輩の絆を深めるなど、さまざまな相乗効果があるこの大会は、今後も剣道部の財産となるでしょう。

目標に向かって心を一つに

——男女ともに今後の目標を教えてください。

香取 男子は関西学生剣道選手権ベスト4と全日本学生剣道選手権ベスト16、女子は全日本学生

剣道選手権優勝が目標で、これに向かって日々精進しています。ぼく自身は3月から新主将になったので、前主将の意志を引き継ぎ、一体感のあるチームをつくってきたいです。部員一同、それぞれの目標に向かって

て、心を一つにしていきます。

◆取材を終えて◆

稽古や大会取材して、凄まじい迫力と熱意が伝わってきました。今後の活躍に注目です！



師範教員、学生、生徒総勢300人の合同稽古は圧巻！

DAIKYO PRESS

特別寄稿！

わたしたちDAIKYO PRESSは、広報誌の作成などを通して、学生の活躍を学内外に発信する学生広報組織です。「大教生が作る、学生のための広報誌」をモットーに、年に数回学生広報誌『DAIKYO PRESS』を発行しています。今回は体育会からの依頼を受け、大教スポーツ作成に参加することになりました。

31団体ある体育会のうち、教員養成系大学ならではの活動を展開している剣道部と陸上競技部、平成26年度全日本インカレで準優勝を果たした女子ハンドボール部、そして、DAIKYO PRESSが注目する硬式野球部、男子サッカー部、バドミントン部を取材しました。

体育会の魅力ある取り組みや素晴らしい活躍を、多くの方々に知っていただければ幸いです。

- 1 教員養成系大学ならではの！
剣道部「小右武剣道大会」、
陸上競技部「子ども陸上教室」
- 2 女子ハンドボール部
強さの秘訣
- 3 DAIKYO PRESS注目の
部活に直撃取材！

DAIKYO PRESSへの取材依頼はこちらまで気軽にご連絡ください！
E-mail: dkpress@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

『子ども陸上教室』

陸上競技部

教員養成系大学ならではの！



タイムから成長の跡が見えるのが一番のやりがいだとか。



わかりやすく、楽しい指導ができるように、部員も日々成長中。

陸上競技部は総勢80人（うちマネージャー1人）の大集団で活動しています。実績は私立大学と肩を並べるほどで、直近の「第91回関西学生陸上競技対抗選手権大会」では、男子個人110mハードル2位、400mハードル2位、棒高跳び3位、10種競技3位、女子個人走り高跳び2位、ハンマー投げ4位といった成績を収めています。

そんな陸上競技部の、教員養成系大学ならではの伝統的な取り組み「子ども陸上教室」について、石田康登選手（大学院保健体育専攻1回生）にインタビューしました。

陸上競技の楽しさを伝えるために



石田康登選手
(大学院保健体育専攻1回生)

——子ども陸上教室とはどんな取り組みですか？

石田 小学生を対象に、自主的に陸上競技を楽しむ環境を提供することを目的として8年前からはじまり、平成20年に部の正式行事となりました。現在では大阪府柏原市や奈良県香芝市など、柏原キャンパス周辺地域

の子どもたち約50人が、毎週練習に取り組んでいます。大阪府の大会で上位成績を収めた子もおり、運動能力の向上にも寄与しています。

——教室では普段、どんな練習をしているのでしょうか？

石田 「しっぽ取り」という、ズボンのお尻の部

分につけたタオルを追いかけて取る遊びでアップ練習をします。そこから徐々に坂ダッシュなど本格的な練習に取り組み、さらに各種目に特化したものを展開していきます。

——教室のスタッフをしていて身についたところは？

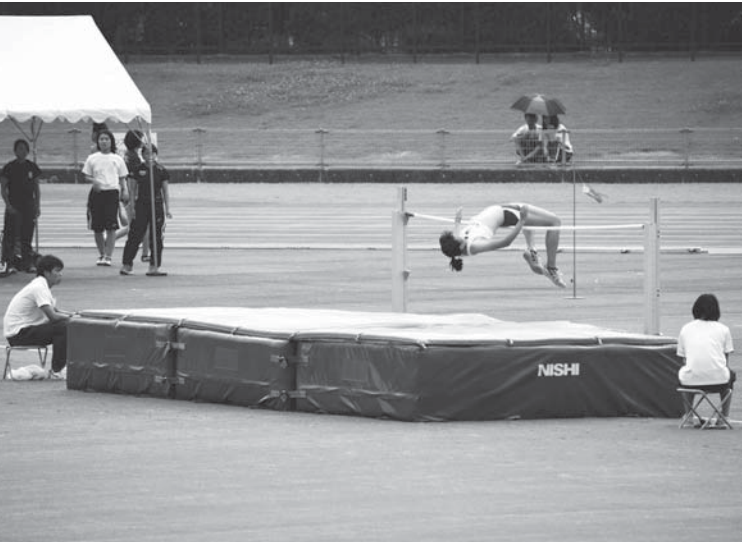
石田 子どもが練習を嫌がり、面倒くさがることしばしばあります。そのため、進んで取り組むように競争を促し、練習を楽しいと思っ

2014年9月11日（木）、12日（金）に開催された、関西学生新人陸上競技選手権大会を見学、撮影してきました。競技場には多くの選手たちが早くから集まり、やる気に満ちあふれた様子が見てとれましたが、故障などですでに棄権している選手も少なく、今までの練習で積み上げてきた力が発揮できない無念さが表情にあらわれていて、スポーツの厳しさを感じた瞬間でした。各々が自分自身

の競技に集中し、ピストルの音が鳴るとともに、自らの足を力いっぱい前へと繰り出す姿は格好良く、緊迫した空気がひしひしと伝わってきました。

競技が終わり、観覧席裏で倒れ込みマッサージを受けている選手も見受けられ、陸上競技とは、ライバルだけでなく、自分の限界と競い合うことであり、肉体的にも精神的にもハードな競技なのだと実感できました。

取材を終えて
恥ずかしがら今回取材するまで、「子ども陸上教室」の存在を知りませんでした。大学の陸上競技部でこうした子ども向け教室を運営することとは、教師になる上で、子どもの身体と心の発育や、身体を動かすことの楽しさを教えることも重要な取り組みだと思えます。これからも、学生の力で楽しい教室を運営して、子どものスポーツへの関心を促す活動を続けてほしいです。



DAIKYO PRESSから見た陸上競技部



てくれず、統率に苦勞することもあります。しかし、この経験は将来自分が教師になった時の授業の進め方や、子どもたちのまとめ方の勉強になります。

——教室を今後どう展開していきたいですか？

石田 子どもたちが遊びの中からたくさん学びを得て、陸上競技の楽しさを感じてもらえるように、スタッフ一同、力を合わせて指導していきたいです。



女子ハンドボール部 強者の秘訣



本誌一面でも特集した女子ハンドボール部の活躍について、チームを率いた主将の眞継麻礼選手（スポーツ専攻4回生）に、その裏側を尋ねました。



新旧キャプテン！
眞継麻礼選手(左)と笠原有紗選手(右)

2014年9月15日（月・祝）に開催された、関西学生ハンドボール秋季リーグの一戦。わたしたちDAIKYO PRESSメンバーは、武庫川女子大学との試合を取材するため、会場となる関西福祉科学大学に足を運びました。ハンドボールの試合を生で観戦するのは生まれて初めてで、広いコートが所狭しと縦横無尽に駆け回るその迫力や、日頃の練習で培われた活気あふれるプレーの数々に、取材を忘れてしまいうような夢中になりました。

本学女子ハンドボール部は終始優勢に試合を進め、前半16対9、後半12対10、トータル28対19で見事勝利。コートを駆け回る選手の中、一際目を引いたのが今回インタビュした主将の眞継麻礼さんをはじめとする、4回生のプレーです。インタビュ本文にもあったように、「4回生が積極的に声を出し、チームを奮起させる」という練習のモットーが試合のプレーに体现されていたように思えます。そしてそれに呼応するように、3回生たち後輩も見事なプレーを見せていました。

また、レギュラー選手をサポートするメンバーの姿も印象的でした。試合前の練習では、万全な状態でアップができるように環境を整え、試合中では、どんな状況でも大きな声援を送り、チームの勢いを後押ししていました。このチーム全員が一体となって戦う姿勢も、強さの秘訣なのでしょう。



DAIKYO PRESSから見た女子ハンドボール部

かりと受け継がれていきます。新生女子ハンドボール部が、今年度も体育会



チーム全員でつかみ取った準優勝
——女子ハンドボール部の強さの秘訣は何でしょうか？
眞継 普段の練習では、「試合のための練習だ」ということを常に意識しています。練習で

きないことはもちろん試合でもできません。お互いのできていないところは、声を掛け合い、チーム内で意識を浸透させています。特に4回生が積極的に声を出し、チーム全体を奮起させてきました。また、大事な場面で

はさっと気持ちを切り替えて集中し、メリハリのあつ練習を大切にすることが強さにも繋がったと思います。

限られた環境の中での快挙
——ハングリー精神も旺盛だと聞いています。
眞継 大教の体育館は他の部活と共有なので、練習で使えるのは平日2日間のみ。また、コート全体を使った本格的な練習は土日のみという、限られた時間と環境の中で練習に励んでいます。正直、他の強豪チームより練習環境は整っていません。だからこそ練習は、量より質にこだわっています。

意志は、後輩へ受け継がれる
——眞継選手から、新キャプテンの笠原有紗選手（スポーツ専攻3回生）にエールをお願いします。
眞継 キャプテンという立場は、自分だけでなく、チーム全体のこと考えないといけないので、つらいこともありま

す。でも、そのつらさを一人で抱え込まずに、仲間を頼って、チーム全体で頑張っていってほしいです。

——その言葉を受けて、笠原さんから意気込みをよろしくお願いします！
笠原 キャプテンという自覚と責任感をしっかりと持ち、先輩方のように、上級生全員でチームを引っ張っていきたいです。先輩方が残してくれた財産を引き継ぎ共に、自分たちのカラーを意識したチーム作りをしていきたいと思っています。



硬式野球部



DAIKYO PRESS

注目の部活に 直撃取材!

春には各部が新体制で始動します。その中で、DAIKYO PRESSが注目する3つの部活をピックアップ!チームカラーやシーズンへの意気込みをインタビューしました。



平井至選手
(主将・教育学専攻3回生)

硬式野球部の大切
にしているチームの伝統
を教えてください。

平井 学年での上下関
係による壁がなく、仲の
良いチームであるところ
です。先輩から後輩への
指導にも温かい気持ち
がこもっていますし、何
より士気が上ってチーム
の団結につながっていると

感じます。礼儀は守りな
がらも、これからこの
雰囲気を受け継いでい
きたいです。

——日々のコミュニ
ケーションが大事なの
ですね。では今後の目
標を教えてください。

平井 近畿学生野球連
盟春季リーグ戦で優勝
し、全日本大学野球選手

権大会に進出すること
です。主将として、チ
ームをリーグ優勝に導
けるよう頑張ってい
きます!

◆取材を終えて◆
普段の練習の良い雰
囲気を受け継ぎ、チ
ーム一丸での快進撃を
期待しています。



西村 昨シーズンの結
果、男子サッカー部は関
西学生サッカー部リー
グから2部リーグへ降格
しました。田中新主将が
チームをまとめ、再び天
下を奪還したいという意
気込みで、今シーズンは
必ず優勝を目指します。

田中 昨シーズンは、最
も大切なことはチーム
ワークです。これまでも
男子サッカー部は「チ
ームワーク」をスローガ
ンに掲げてきた部活なの
で、代替わりしてもず
っと受け継いでいきたい
ですね。

◆取材を終えて◆
受け継がれてきた
チームの伝統と、新キ
ャプテンにより一新され
るチームカラー。この二
つの要素が化学反応を起
すことで、年々チームが
生まれ変わっていくのだ
と感じました。春からの
リーグ戦にも相互作用に
よる良い風が起るよう
にお祈りします。



然芝のフィールドを大教
大の青いユニフォームが
駆け回る姿を見せてくれ
るのを期待しています。

※2014年12月取材



男子サッカー部

バドミントン部



——バドミントン部の
紹介をお願いします。

森 部員は男女あわせ
て22人で、次の関西学生
バドミントン春季リーグ
での3部リーグへの昇格
を目指しています。指導
者がいないため、ぼくら
がキャプテンを中心に
日々練習しています。

田中 専門知識の不足
や上級者自身の練習時間
がとれないのが難点なの
で、指導してくれる方を
募集しています。困難も
ありますが、学年や男女
の隔たりなく気軽に教え

あえる雰囲気は現チーム
のカラーです。

——春からの新チーム
にむけて現キャプテンか
ら伝えたいことは?

森 キャプテンが変わ
ればチームのカラーも変
わるはずですから自分た
ちのカラーの部を作って
欲しいです。ぼくたちも
全力でサポートします!

◆取材を終えて◆
技術だけでなく、チ
ームの統率やマナーでも高
みをめざしているのが伝
わるインタビューでした。





つながりを大切に
モダンダンス部は、主演ステージ「VIVA! La vie Boheme!! ~8th chain~」を2015年2月11日(水・祝)にリビエールホールで開催した。学生の自主的な創作活動を大学が支援する「学生チャレンジプロジェクト」企画の一環で、ステージ開催は今年で8回目となる。

今年の公演のテーマ「chain」は、代々受け継がれてきた公演を継続するという縦の繋がりと、京都教育大学、奈良教育大学との初コラボレーションによる三教育大学の横の繋がりを大切にしたいという思いを込めて名付けられた。ほかにも、本学ダンス部「L・S・B」、「DILE」および「民族舞踊部」、モダンダンス

部OB・OGチーム「あでとおあでーじょ」、柏原市のキッズダンスサーモともにステージで交流した。ロビーには、同じく学生チャレンジプロジェクト企画である、写真サークル「FILM」による写真展や、公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」のグッズ展が開かれ、ステージの外でも新たな交流が生まれた。

モダンダンス部部長の井若律さん(社会科教育3年生)は、「今回のテーマである『つながり』は、異なる世代・環境にいる人々を結びつける力のあるダンスだからこそ実現できました。この公演を通じて様々な人々と協力し合い、観に来てくれた方々にダンスの素晴らしさを伝えることができた」と達成感を語った。

我が体育会 第2回

豊さん (男女サッカー部総監督、大阪教育大学理事)

現役時代に贈る言葉



現役時代のエピソードを教えてください。
「高校までは水泳をしていたのですが、集団競技に興味を持ち、本学ではサッカー部に入学しました。当時の本学は、3つの分校に分かれていて、部員が全員集まって練習できる日が限られていました。また練習場所も、池田分校の400mのトラックの中を5つの部活と共同で使いながらの活動だったので、柏原キャンパスの広大な敷地にある人工芝フィールドでプレーできる選手たちは幸せ者です」

現在の監督としての指導の心得や目標を教えてください。
「サッカーという競技は、監督のサインにしがって動くのではなく、選手個々が状況に応じて動く、チーム力が必要となる競技です。そのために、初めの全国大会出場を直近の目標に掲げ、男女ともに1部リーグ復帰をめざします」

温故知新をテーマに、本学体育会とゆかりのある人にインタビューするこの企画。第2回は、男子サッカー部のOBであり、本学理事ながらサッカー部総監督を務める豊さんです。

我が体育会

第2回

読者にメッセージをお願いします。
「選手間や、現役選手とOB・OGをつなぐツールである体育会広報誌ができて、うれしく思います。これも、本学の部活の競技力が上がっているという証でしょう。特に学生諸君は大教スポーツをきっかけにして、他の部の応援に行ったり刺激を受け、競技を越えた交流を深めてください」

め、学生の自主性と判断力を育てるような指導を心がけており、選手にも周りから尊敬されるチームであれと口にしていました。男子は35年、女子は20年指導を続けていますが、選手からはたくさんの感謝をもらいましたし、欠かさず試合の応援に来てくださる保護者やファンの方々にも、感謝の気持ちでいっぱいです。その恩返しに、男子は初の全国大会出場を直近の目標に掲げ、男女ともに1部リーグ復帰をめざします」



編集後記

大教スポーツ第2号はいかがでしたでしょうか。
今号も目覚ましい成績を挙げた選手・団体が数多く見られ、サッカー部員でもある私は、一選手として、尊敬して止みません。知名度も中身も発展途上な大教スポーツではありますが、大阪教育大学を背負って輝く選手たちに、少しでも力添えできれば幸いです。また今回の発行にあたり、総務広報係の職員の方々、体育会広報部のメンバー、そして取材にご協力いただいた方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

今後の大教スポーツですが、毎日の朝刊のように、みなさんにとって身近で、なくてはならない存在でありたいと願っております。そのためにも、より良い記事づくりに精進してまいりますので、どうぞ応援よろしくお願ひ申し上げます。

松端 伶奈 人間科学専攻2年生